3　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成28年度第３・四半期 発行(借入)	償還	差引き	前年同期 発行(借入)	償還	差引き
国債等	359,575	200,147	159,428	358,401	194,180	164,221
国債(１年超)	342,413	184,704	157,709	342,803	183,301	159,502
借入金	17,162	15,443	1,719	15,598	10,879	4,719
国庫短期証券等	866,994	634,754	232,241	915,891	783,234	132,658
国庫短期証券	751,494	519,253	232,241	800,391	667,734	132,658
一時借入金	115,500	115,500	0	115,500	115,500	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、15兆9,428億円の受取超過であって、前年同期（16兆4,221億円の受取超過）に比べ、4,793億円受取超過額が減少した。国債（１年超）の収支は、発行34兆2,413億円、償還18兆4,704億円、差引き15兆7,709億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆7,162億円、償還１兆5,443億円、差引き1,719億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、23兆2,241億円の受取超過であって、前年同期（13兆2,658億円の受取超過）に比べ、９兆9,583億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行75兆1,494億円、償還51兆9,253億円、差引き23兆2,241億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 5,130	△ 88,946	△ 94,076
特別会計等	△ 116,520	89,166	△ 27,354
財政投融資	△ 8,988	△ 70,191	△ 79,180
外国為替資金	7,899	9,892	17,791
保険	△ 66,379	62,672	△ 3,707
その他	△ 49,051	86,793	37,742
小計	△ 121,650	219	△ 121,430
国債等	159,428	△ 4,560	154,868
国債（１年超）	157,709	△ 4,228	153,481
借入金	1,719	△ 332	1,387
国庫短期証券等	232,241	4,341	236,582
国庫短期証券	232,241	—	232,241
一時借入金	0	4,341	4,341
合計	270,019	—	270,019
調整項目	△ 2,937	—	△ 2,937
総計	267,082	—	267,082

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成28年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 256,897	△ 152,738
特別会計の債券売・買(△)	—	109,153
財政投融資	—	11,980
国債整理基金	—	97,173
その他	△ 91,757	△ 93,062
計	△ 348,654	△ 136,647

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、34兆8,654億円の支払超過であって、前年同期（13兆6,647億円の支払超過）に比べ、21兆2,007億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達２兆1,661億円、資金返済27兆8,558億円、差引き25兆6,897億円の支払超過であって、前年同期（15兆2,738億円の支払超過）に比べ、10兆4,159億円支払超過額が増加した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買はなかった。なお、前年同期は、10兆9,153億円の受取超過で、財政投融資は、１兆1,980億円の受取超過、国債整理基金は、９兆7,173億円の受取超過であった。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、９兆1,757億円の支払超過であって、前年同期（９兆3,062億円の支払超過）に比べ、1,305億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（26兆7,082億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（2,937億円の支払超過）を除いた収支は、27兆19億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、34兆8,654億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（29兆7,488億円）に比べ、７兆8,635億円減少して21兆8,853億円となった。

別表１

財　政　資　金　対　民　間　収　支　実　績　表

△印は支払超過（単位　億円）

区分	10月 収入	支出	差引き	11月 収入	支出	差引き	12月 収入	支出	差引き	計 収入	前年同期	支出	前年同期	差引き	前年同期	前年同期比
(1) 一般会計	43,748	49,834	△ 6,086	50,006	81,821	△ 31,815	88,378	55,607	32,771	182,133	189,633	187,262	183,020	△ 5,130	6,613	△ 11,743
租税	40,598	9,560	31,038	47,386	7,183	40,203	84,529	10,639	73,890	172,513	179,511	27,381	29,622	145,132	149,888	△ 4,757
税外収入	1,391	—	1,391	1,605	—	1,605	2,557	—	2,557	5,553	5,255	—	—	5,553	5,255	298
社会保障費	—	21,594	△ 21,594	—	13,825	△ 13,825	—	15,643	△ 15,643	—	—	51,063	43,896	△ 51,063	△ 43,896	△ 7,167
地方交付税交付金	1,759	0	1,759	1,015	47,474	△ 46,459	1,292	3,572	△ 2,280	4,067	4,867	51,046	53,786	△ 46,980	△ 48,918	1,939